

集中豪雨と線状降水帯

気象庁気象研究所 台風・災害気象研究部長

加藤 輝之

- *線状降水帯とは何か
- *内外の自然災害による人的被害
- *大雨をもたらす積乱雲の発生・発達条件
- *気象レーダーの進化が寄与
- *線状降水帯と命名された経緯
- *日本は線状降水帯が発生しやすい
- *地球温暖化の影響
- *バックビルディング型形成について
- *東京における水害の可能性
- *警戒必要な日本を襲うスーパー台風



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

今日は加藤輝之先生をお招きしました。先生は気象庁の気象研究所台風・災害気象研究部長をなさっています。気象大学校を出られまして東大で博士号を取られて、応用気象研究部部長の後、現職をなさっておられます。また、気象大学校で教頭先生をなさったり、筑波大学連携大学院で教授をなさり、後進の指導もなさって教育の分野でも活躍をされました。

ご著書は2022年に科学関係の出版で有名な朝倉書店から『集中豪雨と線状降水帯』というご本を書かれておりまして、私にも読める本かなと思っただけですけども、これは専門書だそうです。

加藤 輝之 今日日は皆さんもご承知のように近年日本でも

これまで見たことのない集中豪雨の後に各地で大きな被害が起こっております。こういう問題をどういうふうに捉えていったらいいのか、今日は本当の専門家である加藤先生のお話を聞いて、いろいろ教えていただきたいと思えます。また、後で皆さんからもご質問があると思えますが、まずは先生のお話を聞きたいと思えます。それでは先生よろしく申し上げます。（拍手）

線状降水帯とは何か

加藤 多大なるご紹介ありがとうございます。気象庁気象研究所の加藤と申します。今日はよろしく申し上げます。（拍手）

今ご紹介いただいたように、昨年『集中豪雨と線状降水帯』という教科書を出版させていた